地名推理ファイル

絹の道を往く 探訪編（麻生区上麻生）Vol.1

絹の道（横浜上麻生道路＝県道十二号線）は、レストラン「ガスト」と業務スーパーの大きな看板の所で下麻生から上麻生と住所が変わる。

「麻生を『あそうと』と読まれる方が多いですけど、正しくは『あ・さ・おで』す」

「札幌には、同じ麻生があると書いて（あさぶ）という町があります。こちらも、（あさぶ）と間違って読む人が多いです が、（あ・さ・ふ）です」

「なるほど、どちらも麻（あさ）の読みが重要というところですね。あさお）の由来は、古くからこの辺りに麻（ぜ＝からむし）が自生していて、朝廷に麻布を納めていたという記録が元になっていますが…」

「札幌の麻生町の場合は、明治時代です。『北海道製麻株式会社』という亜麻から繊維をとる工場があったのが由来だそうです」

亜麻（あま＝リネン）は、寒冷地が栽培適地というアマ科の植物。明治の初めに、元幕臣で北海道開拓使の榎本武揚（たけあき）が導入し、繊維用として北海道で広く栽培されるようになった。

ちなみに、麻と苧は別物である。麻はアサ科アサ属の一年生で、大麻草たいまそうとも呼ばれる。一方、苧はイラクサ目イラクサ科の多年生。繊維は強靭で上質なため、古くから繊維をとるために栽培されてきた。別名、紵（お）・苧麻（ちょま）、青苧（あおそ）、山紵（やまお）、真麻（まら）と呼ばれる。神事などには麻が用いられ、朝廷に献上した租庸調の麻は衣服に用いられる苧だったといわれている。余談だが、高級繊維を使用した女性の下着、つまりランジェリーはフランス語で（ラ）と発音される亜麻に由来する。

「その苧の麻を朝廷に献上していたというのは、やはり奈良時代ですか？」

「それが、麻生という地名が初めて文献に現れるのは、元弘三年（１３３３）。後醍醐天皇から恩賞として文書で渡す」

「ほお、足利尊氏ですか。室町幕府初代将軍ですね」

尊氏と朱印状

「年配の方に尊氏の話をすると、『あいつはとんでもない悪党、国賊だから』…って、親の仇かのような言葉が返ってきますね」

「戦前の教科書には『尊氏は己の欲望のために、後醍醐天皇を利用し、その上で叛旗をひるがえして政権を奪って室町幕府を立てた』と書かれていますからね。幕末の京都では、尊王攘夷派によって足利将軍三代の木像の首が切り落とされました」

「面白いのは、足利将軍悪党説を唱えたのは、徳川家康の孫にあたる水戸黄門（徳川光圀）だということ。それが原因で徳川家が滅んだんですから、皮肉なもんです」

「大日本史ですね。その編纂のために集まった学者を中心として生まれた水戸学は、吉田松陰や西郷隆盛をはじめとした幕末の志士に多大な影響を与えました」

「自分なんかは、若い頃に読んだ吉川英治の『私本太平記』で尊氏や南北朝の時代を知ったので、尊氏に関しては気の優しいお坊ちゃま・という印象ですね。物欲がない分、何でも人にあげちゃう…気前のいい総大将です。なので自分は、悪党なんてイメージはまったくありませんね」

「ほお、優しくて気前がいい…ですか。そういえば、足利尊氏だ…と学校で教わった肖像画も、じつは別人だったそうですね」

「検証の結果、足利家の執事・高師直（こうのもろなお）ではないか…といわれています。源頼朝も、武田信玄も、今では別人説です。歴史の解釈も自分たちの頃とはずいぶん変わってしまってますよ」

「知らないでいると、恥をかきますねえ」

「新しい事実が見つかると、たちまち姿を変える。歴史は生き物なんですね。さらに、偏った思想が介入すると真実は捻じ曲げられる。南北朝時代の話だってそうです。戦後もしばらくタブーでしたから、時代劇でもほとんどやっていませんでした。平成三年（１９９１）に大河ドラマで『太平記』をやると聞いた時は、嬉しくてたまらなかったですよ。放映に先立って開催された栃木県足利市のお祭りにもできました」

「えっ、わざわざ…ですか？」

「それが、尊氏役の真田広之と、奥方役の沢口靖子が参加してパレードを行うって聞いたもんですから、思わず電車に飛び乗って見に行っちゃいました」

「好きですねぇ～笑」

「もちろん、そのあと足利の街も散策しましたよ。日本最古の足利学校や足利氏の館跡といわれる鑁阿寺（ばんなじ）。王禅寺を焼いた、尊氏のライバル・新田義貞の史跡も回りました。知ってますか？足利氏は、もともと群馬県太田市は渡良瀬川を挟んで隣同士なんですよ」

「で、その足利尊氏が麻生郷の土地をもらったんでしたね」

「鎌倉幕府が滅亡し、後醍醐天皇から恩賞として全国各地に約三〇ケ所の所領が与えられたそうです。その一つが麻生郷です」

「なるほど。室町時代の初めに麻生郷があったという証拠ですね」

「尊氏は、もらった麻生郷のうちから（本郷と（堀内）の二つを足利家の祈願所である鎌倉の保寧寺（ほねいじ）に寄進しました。そのことが書かれた文書が二番目に古い文書です」

「保寧寺ですか…。鎌倉のどのあたりなんでしょう？」

「あじさい寺で有名な明月院の近くにあったそうですが、今は現存していません。本郷・堀内もどこにあったのかは不明です。その後、本郷・堀内について『乳牛役を免除の通り免除する』という文書や尊氏が麻生郷を争乱から守るために出した禁制も見つかっています」

「ほお、麻生郷で乳牛を育てていたんですか…！」

「そのようですね。因みに、乳牛役というのは乳牛に対する税のことです。あ、そうです。禁制といえば、豊臣秀吉が小田原攻めを行った際に出した、ご禁制の朱印状が残っています」

「ご禁制の朱印状…。兵士が土地の人間に乱暴狼藉をしないように戒めた書類ですね。確か、都筑区のあじさい寺（正覚寺）にも伝わっています」

「ええ、その朱印状に、武蔵国都筑郡麻生郷と書かれています。その横に王禅寺村・古沢村・万福寺村・それから、黒金の郷・石川の郷・三輪の郷・大棚の郷・荏田の郷・片平の郷・大棚の郷の名前が並んでいるんですよ」

「王禅寺と三輪は分かりますが、古沢村と万福寺村は…」

「万福寺は、現在の新百合ケ丘駅北側・古沢は西側にあった村です」

「黒金と石川と荏田、この三つは青葉区になりますね。大棚に至っては都筑区じゃないですか…」

「川崎の図書館へ行って調べたら、八辻九ケ村が麻生郷に含まれていると、書かれていたんで驚いたんですよ」

高

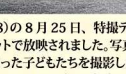
梅の木眼科 第145回 ケアルームセミナー 参加費：無料

「歴史探訪・高丸の市ヶ尾歴史さんぽ」～その続編 絹の道～

3月29日(火) 13：45～15：00(要予約)

会場 梅の木眼科ロービジョンケアルーム（市ヶ尾町1168-1）

お申込み/お問合せ 梅の木眼科 TEL 045-972-4911 FAX 045-972-4928



大好評の「じゃんけん大会」 今月もやりますよ～！！

第57回たまプラーザ「軽トラ」元気市！

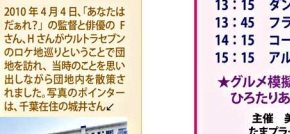
3/20(日) 9:00-14:00 美しが丘公園

http://www.keitora.info/index.html

『軽トラ元気市』は、「たまプラーザから日本を元気に！」をモットーに、毎月1回、第3日曜日に美しが丘公園の自由広場で開催されている“生産者と消費者を結ぶ”朝市です。

～わが街今昔～ 青葉区美しが丘一丁目 昭和４３年７月 たまプラーザ団地 （１９６８年）

2010年４月４日、「あなたはだぁれ？」の監督と俳優のＦさん、Ｈさんがウルトラセブンのロケ地巡りということで団地を訪れ、当時のことを思い出しながら団地内を散策されました。写真のポインターは、千葉在住の城井さん↙

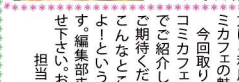
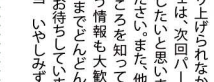


が制作されたレプリカ。このロケ巡りのあと、美しが丘公園で開かれていた「桜まつり」に参加していただきました。（ひろたりあん通信 2010年４月号掲載）

現在のたまプラーザ団地

昭和43年(1968)の８月25日、特撮テレビ番組「ウルトラセブン」の第47話「あなたはだぁれ？」が全国ネットで放映されました。写真は、その１ヶ月前に「たまプラーザ団地」で行われたロケ現場に集まった子どもたちを撮影したスナップ写真です。

写っている車は、ウルトラセブンの劇中に登場するウルトラ警備隊の特殊車輌「ポインター号」。当時、子どもたちの憧れだったこの車両は、クライスラーのインペリアル クラウン 1958年モデルをベースに造られています。本番待ちの休憩中、子どもたちは、主人公「モロボシ・ダン」役の森次晃嗣さんや毒蛾三太夫（旧芸名：石井 伊吉）さんに遊んでもらったそうです。警備隊のヘルメットを被らせてもらい、憧れのポインター号に乗らせてもらっているのは、撮影された長野さんの息子さん。以来、この写真は息子さんの宝物になりました。

昭和４３年(1968)３月に竣工した「たまプラーザ団地」は、人気のエリアで駅にも近いところから入居希望者が殺到しました。この頃、団地には巡回のクリーニング屋さんがやって来ていたそうです。「僕はアヒルの洗濯屋～ママ号、ママ号♪」という独特の節回しの歌を覚えている方もいらっしゃるのではないでしょうか。ちんどん屋さんが街を練り歩くなど、この当時のたまプラーザは、いろいろな音にあふれていました。※ウルトラセブンの撮影は夜も行われ、見学しに来ていた小学生の姿が実際の映像にも映り込むというハプニングもありました。当時のたまプラーザ団地の様子は、市販のDVD「ウルトラ1800 ウルトラセブン Vol.12＜最終巻＞」で確認できます。

写真提供 ： 美しが丘 長野さん